

建設技術審査証明事業（一般土木工法）

概要書

スクリューパイルEAZET工法 (小口径・回転杭工法)

審査証明書

技術名称：スクリューパイルEAZET工法
(小口径・回転杭工法)

技術証第47号

(開発の趣旨)

昨今、都市部では、既存構造物の耐震化工事やバリアフリー化工事などが急増しており、特に基礎杭の施工においては、小スペースや上空に制限のある厳しい条件下での施工に加え、建設発生残土や二酸化炭素排出量の削減など、環境への配慮も求められている。本工法は、杭の先端に一枚のらせん状の羽根を取り付けた鋼管を、回転能力の高い小型の専用施工機械にて直接回転埋設して、羽根の推進力により地盤中に貫入させるメカニズムで、無排土・低振動・低騒音での施工を可能とする杭打ち工法である。これまで小口径の鋼管を中心に建築分野で積み重ねてきた多くの経験と実績を踏まえ、都市部における土木工事への適用拡大を目的として新たな鋼管の仕様をラインナップに加え、現在求められている社会のニーズに応えられる小口径の鋼管を用いた回転杭工法を、社会に提供することを開発の趣旨とする。

(開発目標)

- (1) 杭先端のらせん状の羽根の効果により、支持層まで回転貫入することができ、小口径の鋼管杭として所定の先端及び側面支持力が得られること。
- (2) トルシアボルトを用いた機械式継手の性能が、鋼管本体と同等以上の、性能を有していることを確認すること。
- (3) 回転貫入により無排土で施工できること。
- (4) 施工時に発生する騒音・振動レベルが法定の規制値を下回っていること。
- (5) 支持層への到達を、施工中のトルクを計測することにより確認できること。
- (6) 近接構造物への影響が少なく施工できること。

一般財団法人国土技術研究センターの建設技術審査証明事業実施要領に基づき、依頼のあった「技術名称：スクリューパイルEAZET工法（小口径・回転杭工法）」の技術内容について下記のとおり開発目標を達成していることを証明する。

更新 平成 19 年 3 月 26 日
内容変更 平成 24 年 3 月 26 日
更新 平成 26 年 3 月 17 日
更新 平成 31 年 3 月 17 日

建設技術審査証明協議会会員
一般財団法人 国土技術研究センター

理事長

谷口博昭

記

1. 技術審査の結果

- 上記の開発主旨および開発目標に照らして本技術を審査した結果、以下の結論を得た。
- (1) 杭先端のらせん状の羽根の効果により、支持層まで回転貫入することができ、小口径の鋼管杭として所定の先端及び側面支持力が得られることが確認された。
 - (2) トルシアボルトを用いた機械式継手（名称：CCジョイント継手）の性能が、鋼管本体と同等以上の性能を有していることが確認された。
 - (3) 回転貫入により無排土で施工できることが確認された。
 - (4) 施工時に発生する騒音・振動レベルが法定の規制値を下回っていることが確認された。
 - (5) 施工中のトルクを計測することにより、支持層への到達の判断ができることが確認された。
 - (6) 近接構造物への影響が少なく施工できることが確認された。

2. 技術審査の前提

技術審査は、依頼者の責任において適正に設計が行われ、適正な材料・機械を用いて、適正な施工及び品質管理が行われることを前提に、依頼者から提出された資料に基づいて行われたものである。

3. 技術審査の範囲

技術審査は、依頼者により提出された、開発の趣旨および開発目標に対して設定した確認方法に基づき、性能を確認した範囲とする。

4. 技術審査の詳細

(別 添)

5. 審査証明書の有効期間

審査証明日 ～ 平成36年3月16日

6. 依頼者

旭化成建材株式会社（東京都千代田区神田神保町1丁目105）

千代田工営株式会社（埼玉県さいたま市大宮区上小町940番地）

平成31年3月

建設技術審査証明協議会会員

一般財団法人 国土技術研究センター（JICE）

技術（工法）の概要

本工法は、先端部に鋼管径に比べて1.87～3.00倍の大きさのらせん状の羽根を設けた鋼管杭を、直接地面に回転貫入させて支持杭とする直径114.3mm以上406.4mm以下の小口径の鋼管を用いた回転杭工法です。これら羽根の効果により、鋼管径に比べて大きな軸方向押込み力や引抜き力が発揮されます。

本工法では、杭の継手に溶接継手の他にトルシアボルトを用いた機械式継手であるCCジョイント継手を採用しており、これまで施工時間を要していた溶接作業に比べて格段に早い接続時間を実現し、天候や溶接工の技能に左右されない安定した杭接続を可能としました。

また、施工機械は小型の専用施工機械を全国に配備し、これまで施工ができないような狭隘な現場や上空制限のある現場でも杭の施工を可能にし、低騒音・低振動・無排土で施工を行います。



スクレューパイルEAZET杭の先端部



標準的な施工機械

CCジョイント継手の施工状況



クリッパー・ボルトのセット



高さ2.1mの超短尺施工機械



施工状況（φ406.4の施工）



CCジョイント嵌合状況

技術（工法）の特徴

1 環境への配慮

- 地盤中に回転貫入していくため、排土が全く無い。
- 小型の施工機械により、低騒音・低振動で施工できる。

2 安定した支持力性能

- 杭先端部に取り付けたらせん状の羽根により、小口径の鋼管でありながら高い先端支持力を発揮する。
- 先端羽根部のアンカー効果により、高い引抜き支持力を発揮する。

3 高品質の杭を施工

- 施工機械に取り付けた施工管理計により、施工中の回転トルクを計測し、確実な打ち止め管理が可能である。
- 工場生産された、高品質の杭（鋼管）を使用している。
- 独自に開発した機械式継手（CCジョイント継手）により、溶接継手と比較して施工日数短縮と確実な施工管理が可能である。

4 高性能小型施工機械での確実な施工

- 施工機械の標準寸法は幅2.5m×長さ6.0m、リーダー高さ約9.0mであり、狭隘地での施工が可能である。
- 施工場所の高さ条件により、その有効高さに合わせたリーダーに切り替えが可能（リーダー高さ6、5、4、3、2mに対応）である。

技術審査結果の概要

1. 支持力特性

杭先端のらせん状の羽根の効果により、支持層まで回転貫入することができ、小口径の鋼管杭として所定の先端及び周面支持力、及び引抜き支持力が得られることを確認しました。

$$\textcircled{1} \text{ 押込み支持力 } Ru = 150 \bar{N} \cdot Aw + U \Sigma (Li \cdot \hat{f}i)$$

$$\textcircled{2} \text{ 引抜き支持力 } Pu = \pi \cdot Dw \cdot \left(\Sigma \gamma i \cdot Li + \gamma \frac{H}{2} \right) \cdot H \cdot \beta \tan \phi + U \Sigma (Li \cdot \hat{f}i) \quad (\text{先端砂質土})$$

$$Pu = \pi \cdot Dw \cdot H \cdot c + U \Sigma (Li \cdot \hat{f}i) \quad (\text{先端粘性土})$$

Ru : 地盤から決まる杭の極限支持力 (kN)

U : 杭の周長 (m)

$\bar{N}$: 杭先端地盤の平均N値 ($N \leq 50$)

Li : 周面摩擦力を考慮する層の層厚 (m)

Aw : 羽根径を直径とする円の面積 (m²)

$\hat{f}i$: 周面摩擦力を考慮する層の最大周面摩擦力度 (kN/m²)

Dw : 羽根の外径 (m)

γi : 支持層より上の層の土の有効単位体積重量 (kN/m³)

γ : 支持層の土の有効単位体積重量 (kN/m³)

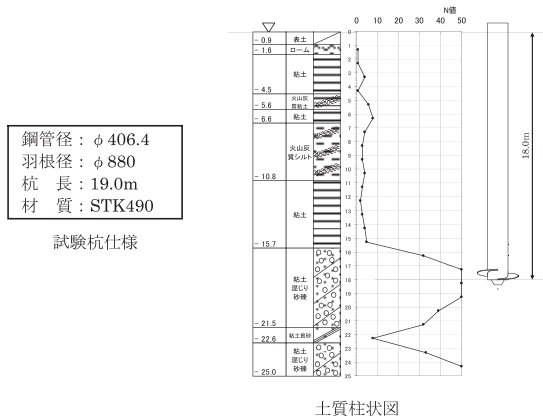
β : 引抜き係数

ϕ : 支持層の内部摩擦角 (°)

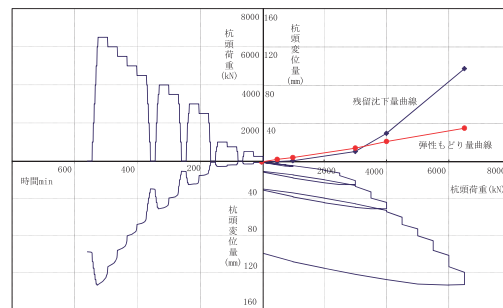
U : 杭の周長 (m) = $\pi \cdot Dp$ (Dp は鋼管径)

c : 支持層地盤の粘着力 (kN/m²)

H : 羽根上方の局所せん断破壊域の拡がる高さで、支持層への根入れ長 (m) ($H \leq 2.5 Dw$)



土質柱状図

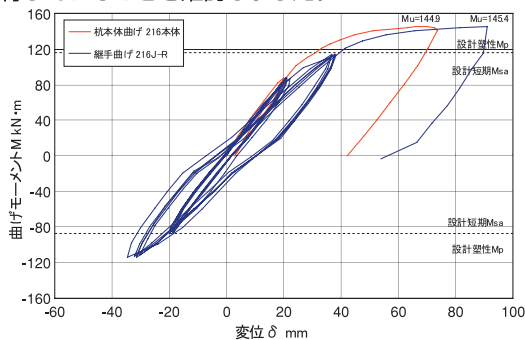


鉛直載荷試験結果

載荷試験概要(c-1宇都宮)

2. 継手の性能

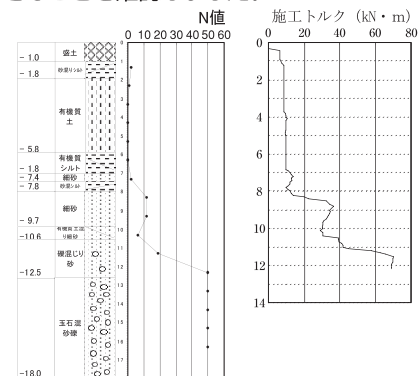
本工法に用いる機械式継手は、鋼管本体と同等以上の性能を有していることを確認しました。



CCジョイント継手曲げ試験結果(HCCJ)

3. 施工管理

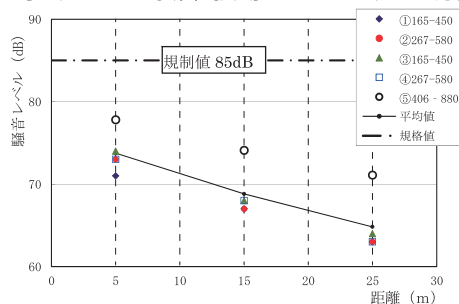
施工中のトルクを計測することにより、支持層への到達の判断ができることを確認しました。



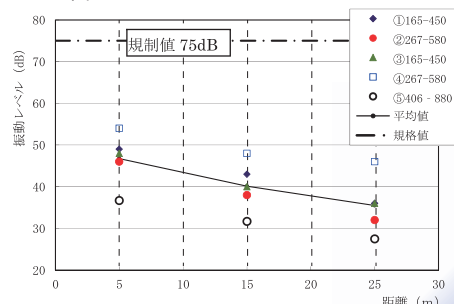
施工記録例

4. 低騒音・低振動

施工時に発生する騒音・振動レベルが法定の規制値を下回っていることを確認しました。



騒音レベル



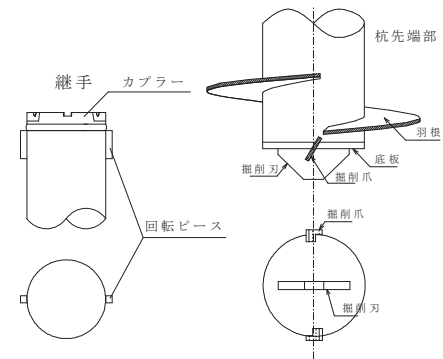
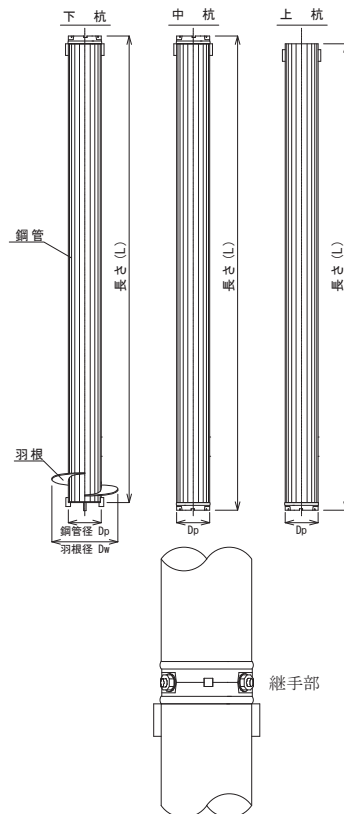
振動レベル

技術(工法)の適用範囲

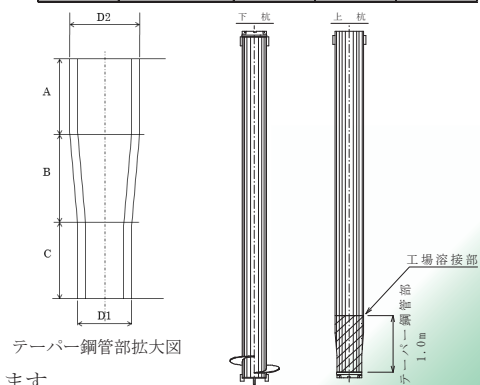
掘削・排土方式の概要	回転貫入・無排土で施工
鋼管径	φ114.3～406.4mm
支持地盤種別と鋼管径 (押込み、引抜き)	砂層：30≦N≦50 φ114.3～406.4mm (構造物によっては、N値25以上も適用可) 砂れき層：30≦N≦50 φ114.3～406.4mm 粘性土層：20≦N≦50 φ114.3～355.6mm (構造物によっては、N値15以上も適用可)
鋼管材質	STK400、STK490、SKK400、SKK490
羽根径	φ250～880mm (鋼管径の1.87～3.00倍)
羽根部材質	SS400、SS490、SM490A
テーパ鋼管	NS-490TPP (認定番号MSTL-0230)
継手	機械式継手 (HCCJ継手、NCCJ継手)、溶接継手
最大施工深さ	鋼管径の130倍以下

標準的な鋼管径と羽根径※

鋼管径 (mm)	羽根径 (mm)
114.3	250
	300
139.8	300
	350
165.2	350
	450
190.7	400
	500
216.3	470
	550
	600
267.4	580
	650
	800
318.5	600
	750
355.6	700
	800
406.4 (400)	800
	880



タイプ	D1-D2	A寸法	B寸法	C寸法
I	190.7-216.3	300	400	300
II	216.3-267.4	300	400	300
III	267.4-318.5	300	400	300



※地区により提供できる羽根径が異なります。

依頼者

旭化成建材株式会社 〒101-8101 東京都千代田区神田神保町1-105 TEL03-3296-3544
千代田工営株式会社 〒330-0855 埼玉県さいたま市大宮区上小町940 TEL048-642-5252

技術内容及び報告書の入手に関するお問合せ先

報告書(技術審査の詳細)の入手を希望される方は下記までお問合せ下さい。

法人名 旭化成建材株式会社
部 署 東京基礎第一営業部
住 所 〒101-8101 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング
T E L 03-3296-3544 F A X 03-3296-3545

本概要書は、一般財団法人国土技術研究センター(JICE)が行った「建設技術審査証明事業(一般土木工法)」の結果を、広く関係各位に紹介する目的で作成したものであります。

一般財団法人国土技術研究センター(JICE) <http://www.jice.or.jp/>

建設技術審査証明協議会 <http://www.jacinet.jacic.or.jp/sinsa/>